

若者の意識に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報 告 書
(概要版)

平成 22 年 7 月

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査項目	1
3	調査対象	1
4	調査時期	1
5	調査方法	1
6	有効回収率	1
II	ひきこもり群・ひきこもり親和群の定義	
1	ひきこもり群	2
2	ひきこもり親和群	3
3	一般群	3
4	厚生労働省の「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」との整合性	3
III	調査の結果（抄）（松井豊・渡部麻美）	
1	性別	5
2	年齢	5
3	主生計者	6
4	小中学校時代の学校での経験	7
5	小中学校時代の家庭での経験	8
6	現在の就業状況	10
7	ふだん自宅をよくしていること	11
8	ひきこもりの状態になった年齢	12
9	現在の状態になったきっかけ	13
10	現在の状態について関係機関に相談したいか	14
11	現在の状態をどの機関なら相談したいか	15
12	自身にあてはまること	16
13	不安要素についてあてはまること	18
14	ふだんの生活態度	20
15	悩みを相談する相手	22
16	対人関係と精神症状に関する変数の分析（対人関係の若手意識）	23

IV	企画分析委員からのコメント	
1	高塚雄介「臨床心理学の立場から－ひきこもる若者たちの心は・・・」	24
2	吉川武彦「精神医学から見た『ひきこもり』 －内閣府が実施した本調査とこれまでのわが国における『ひきこもり』調査 の差異に触れて－」	29
3	松井豊・渡部麻美「社会心理学の立場から」	33
V	調査票（単純集計付）	40
VI	若者の意識に関する調査企画分析会議構成員名簿	48